

## 【定期試験】

僕は赤点を取った事もなければ、国試に対して不安を持つ事でもありませんでした。決して頭が良かったわけでも無くコツコツ努力するタイプでもありません。どちらかと云えば勉強が大の苦手で授業を聴いていてもさっぱり分かりませんでしたし、楽したいタイプですからね。じゃ、なんで赤点無しで国試に不安を持たずにいられたのかって？

一言で言えば「お陰様」です。クラスの中には、人付き合いがうまい人も居れば、賢い人も居ます。付き合いの上手い人は先輩から過去問題や〇〇先生のテストの特徴などの情報を持っていました。またある人は今回のテスト範囲をA3用紙3枚ほどに上手にまとめて主婦仲間に配っていました。東大出身の小野さんのノート〔俗称：小野ちゃん note〕はPointがマークされているのでとても分かり易かった。学校まで1時間半かけて電車通っていたのでテスト前は往復の時間を使ってそのプリントを暗記していました。ノートに書くなんで時間が掛かるので非効率と思っていたので、ブツブツと独り言を言いながら何度も読む。目をつぶってまぶたの裏にいま読んだノートの文字を書くなどどこでも出来る勉強をしていました。

ある先生から「バカはPointが分かっていないんだからノートを作っちゃダメだ。ノートを作って勉強している気になっているだけで何も身に付いていない」と言われたんですよ。

小野ちゃんノートと僕がまとめてみたノートを見比べて僕はバカなんだなあとつくづく思いました。

要点を纏められる人は本当に頭の良い人です。クラスの中には僕のようにまとめるのが苦手な方も居ますのでどうぞ助けてあげてください。

僕が学生の頃は赤いシートで隠して大切な所をまとめてある参考図書はまだ有りませんでした。今は色々出ているし、YouTubeで分かりやすく解説をしてくれている先生もいます。

AI時代の真っ只中にいる僕たちは情報に困ることなんか有りません。情報を得てどう活かすかを考えた方が良いですよ。試験なんて課されている事なんて楽しんでクリアすれば良いんです。

それよりも、限りある時間をあなたの情熱のある分野や得意な分野にどんどん割いて、そこで得た経験や情報はどんどん発信してあげてください。きっと、誰かの役に立ちます。

## 【国家試験】

100人受けて70人以上受かるはり師きゅう師の国家試験、僕はどう考えても70人の方だろうという根拠のない自信はありましたよ。そりゃ、全国模試で100番以内に入るなんてはなっから無理と諦めますが、仮に5万人受験した時に成績が4万人以下になる事の方が難しくない？とっていました。だから、意識していたのはボーダーラインです。国家試験のボーダーラインは60%でしたから、70%を意識して勉強しました。やり方は至ってシンプルです。新しい問題なんてそうそう出てきません。仮に出てきたとしても僕の中では30%は最初から捨てていますので気になりません。過去に使われた問題にちょこっとアレンジしてあるだけです。ひたすら過去問題の解説を読んで関係している教科書のページを読んだくらいで目新しいことはやっていません。最初は40/160点位でした。定期試験はその場しのぎでしたから忘れていたことも多かったですからね。三年生にあがり周りがなんとなく試験モードになってきた頃から僕も少しずつやり始めました。仕事をしながら学校に通っていたので往復の通学時間と23時頃帰宅して近所のロイヤルホストが閉店する26時までが僕の勉強時間でした。東大生に効率の良い方法を聞いたんですよ。「少しずつで良いからいつも全体を見ること」ってね。だから毎日14科目少しずつ勉強しました。やり始めてしばらくすると共通項や科目の繋がりが分かる様になりました。「みんな、難しい問題があったらそこに意識しちゃって自信なくしちゃったり、難しい問題を克服しようと必死にその問題に沢山の時間使うけど、全体から見たらそんな問題はごくわずかなんだからもっと基本的な問題をどんどん解いて覚えた方が成績上がるのよ」確かに、言われた通り一つの科目や問題にこだわらないで全体をくまなくやるようになったらボーダーラインは手の届くところまで直ぐにきました。年末にはどんな模試を解いても100/160点になりました。あとは現状維持をすれば確実に受かりますからね。まあ、おすすめは「森を見てから木を見る」ことと「木にこだわりすぎない」ことですね。僕の時代も勉強の仕方が分からないなんていう人が居ましたけれど…そう言っている人に限って勉強していないか、人の言うことを聴かずにバカな勉強して成績伸び悩んでいました。